

令和4年度 入学試験（学部・一般選抜） 国語

国語では、解答の書き方・表現を一つに限定しがたい設問について、採点基準に近い形の出題意図を示す。

1

問（一）（解答例）

人びとの身体を取引のできない神聖な「物」とみなすことで、身体に関わる侵害を所有に関する法体系のなかに置きなおすこと。

問（二）（解答例）

身体が「物」であることを認めがらない近代法学者の態度は、実のところ古代ローマの風習よりも遥かに非科学的であるとも言えるから。

問（三）（解答例）

人間は具体的な身体の次元とは別に、法の上には存在しない「人格」という概念を導入することで、その生存のあり方を制度上の問題にすり替えて日々の社会生活を営んでいるということ。

問（四）（解答例）

論理的な一貫性を重視するあまりに〈身体〉と〈人格〉を厳格に峻別しようとするのではなく、むしろ両者の一体性を侵害しようとする行為から人びとを救済するものであるべきだと捉えている。

問（五）（解答例）

死とは、〈身体〉と〈人格〉の不可分な一体性を丸ごと失う営みであるにも関わらず、近代的な法体系の下では、そのあり方が単に「物」を壊す行為と同一視され、死という出来事に固有の破滅性が意味を持ちえなくなってしまうということ。

問（六）（意図・基準）

本問は課題作文に当たる。文章・構成面では、字数が8割以上あり、最後まで書き終えていること、誤字・脱字がなく、全体の構成がきちんと構築されていることを求めている。内容面では、本文の内容を踏まえていること、指示されている内容にふさわしい具体例を挙げていること、論理が一貫し、結論まできちんと書かれていることを求めている。

問（七）

(a) 趣旨（主旨） (b) さかのぼ (c) 意表 (d) 拘泥 (e) 要請

2

問（一）（解答例）

自分のような老人が若い娘に恋をしているのは恥ずべきことなので、自分の心一つのうちに秘めて、言い出すこともできずに

問（二）（解答例）

もう、どうなっても、率直に言い出してこそ、この気持ちを僅かでも晴らすことができるでしょう。

問（三）（解答例）

時間を戻して若返った夢を見せることで、時間を戻せば娘もいなくなるということにすら気づかないという、自分の理性を失ってしまっているさまを自覚させ、男が迷いから覚めるよう促した。

問（四）（解答例）

最初は観音の言うことが本当だろうかと思いつつ、また遠慮気味に申し出たが、次第に大胆になり、どうせなら娘と同じ年頃までと、どんだんのめり込んでいく心情。

問（五）

- (a) 打消の助動詞「ず」の已然形      (b) 自発の助動詞「らる」の連用形  
(c) 尊敬の助動詞「さす」の連用形

## 解答例

(一) (1)し (2)いく (3)た

(二) けい (は) よろしくこれをさっすべし (と)。

(三) 妻は、夫が今ここを出てしまったら、もう二度と入る気持ちにはなってくれまいと考え、いきなり裾をつかんで引き止めた。

(四) 許允は、妻が醜く、女性としての資質を備えていないと非難し、一方で自分は士人の備えるべき資質を備えていると自負した。しかし、妻の醜さを嫌うことは、実は士人としての最も重要な美德に反することであると妻から指摘され、自分の不徳に気づいたから。